

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称（日本語）： クロスエイド_全種共通
 供給者の会社名： 株式会社キャンディルデザイン
 住所： 神奈川県川崎市宮前区有馬8-3-11
 電話番号： 044-863-9112
 推奨用途： 粘着剤
 使用上の制限： 用途外での使用は禁止

2. 危険有害性の要約

【GHS分類】

物理化学的危険性

引火性液体： 区分2

健康に対する有害性

急性毒性（経口）： 区分に該当しない

急性毒性（経皮）： 区分に該当しない

急性毒性（吸入：気体）： 区分に該当しない

急性毒性（吸入：蒸気）： 区分4

急性毒性（吸入：粉塵ミスト）： 分類できない

皮膚腐食性／刺激性： 区分に該当しない

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性： 区分2

呼吸器感受性： 区分に該当しない

皮膚感受性： 区分に該当しない

生殖細胞変異原性： 区分2

発がん性： 区分1B

生殖毒性： 区分に該当しない

特定標的臓器毒性（単回ばく露）： 区分3（気道刺激性、麻酔作用）

特定標的臓器毒性（反復ばく露）： 区分に該当しない

誤えん有害性： 分類できない

環境に対する有害性

水生環境有害性 短期（急性）： 区分に該当しない

水生環境有害性 長期（慢性）： 区分に該当しない

オゾン層有害性： 分類できない

【GHSラベル要素】

絵表示



注意喚起語： 危険

危険有害性情報： 引火性の高い液体及び蒸気 (H225)

- : 強い眼刺激 (H319)
- : 吸入すると有害 (H332)
- : 呼吸器への刺激のおそれ、又は、眠気又はめまいのおそれ (H335+H336)
- : 遺伝性疾患のおそれの疑い (H341)
- : 発がんのおそれ (H350)

注意書き

- 安全対策**
- : 使用前にSDS等を入手すること。(P201)
 - : 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。(P202)
 - : 熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。一禁煙。(P210)
 - : 容器を密閉しておくこと。(P233)
 - : 容器を接地すること/アースをとること。(P240)
 - : 防爆型の電気機器/換気装置/照明機器/製造者/供給者又は所管官庁が指定する機器を使用すること。(P241)
 - : 火花を発生させない工具を使用すること。(P242)
 - : 静電気放電に対する予防措置を講ずること。(P243)
 - : 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。(P261)
 - : 取扱後は製造業者、供給者又は所管官庁が指定する取扱い後に洗浄する体の部分をよく洗うこと。(P264)
 - : 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。(P271)
 - : 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。(P280)
- 応急措置**
- : 気分が悪い時は医師に連絡すること。(P312)
 - : 皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。(P303+P361+P353)
 - : 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340)
 - : 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)
 - : ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診断/手当てを受けること。(P308+P313)
 - : 眼の刺激が続く場合：医師の診断/手当てを受けること。(P337+P313)
 - : 火災の場合：消火するために製造者/供給者又は所管官庁が指定する適当な手段を使用すること。(P370+P378)
- 保管**
- : 施錠して保管すること。(P405)
 - : 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。(P403+P233)
 - : 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。(P403+P235)
- 廃棄**
- : 内容物/容器を国際/国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。(P501)

3. 組成及び成分情報

単一化合物・混合物の区別 : 混合物

化学名又は一般名 : アクリル樹脂溶液

成分名	CAS 番号	化審法番号	含有量 (%)
酢酸エチル	141-78-6	2-726	49~53
アクリル酸エステル共重合体	登録済	登録済	36~40
粘着付与樹脂	登録済	登録済	8~10
酢酸ビニル	108-05-4	2-728	1~3

4. 応急措置

吸入した場合	: 直ちに医師に連絡すること。 : 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
皮膚に付着した場合	: 直ちに医師に連絡すること。
眼に入った場合	: 水で数分間注意深く洗うこと。 : 次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 : 眼の刺激が持続する場合は、医師に連絡すること。
飲み込んだ場合	: 直ちに医師に連絡すること。 : 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状	: 情報なし
応急措置をする者の保護に必要な注意事項	: 情報なし
医師に対する特別な注意事項	: 情報なし

5. 火災時の措置

適切な消火剤	: 泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類、噴霧水
使ってはならない消火剤	: 棒状放水
火災時の特有の危険有害性	: 引火性の高い液体および蒸気。 : 消火後再び発火するおそれがある。 : 火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法	: 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 : 容器が熱に晒されているときは、移動しない。 : 安全に対処できるならば着火源を除去すること。
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	: 適切な空気呼吸器、防護服（耐熱性）を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	: 全ての着火源を取り除く。 : 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 : 関係者以外の立入りを禁止する。 : 密閉された場所に立入る前に換気する。
環境に対する注意事項	: 情報なし
封じ込め及び浄化の方法及び機材	: 不活性材料（例えば、乾燥砂又は土等）で流出物を吸収して、化学品廃棄容器に入れる。 : 危険でなければ漏れを止める。
二次災害の防止策	: すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。 : 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い
- : 消防法の規制に従う。
 - : 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。
 - : 炎や高温のものから遠ざけること。
 - : 適切な呼吸器保護具、保護手袋、保護眼鏡、保護面、保護衣を着用すること。
 - : この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
 - : 眼に入れないこと。
 - : 環境への放出を避けること。
- 保管
- : 消防法の規制に従う。
 - : 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。
 - : 施錠して保管すること。
 - : 容器を密閉して冷乾所にて保存すること。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度／許容濃度

化学名	管理濃度 (ppm)	管理濃度 (mg/m ³)	産業衛生学会 (ppm)	ACGIH: TWA (ppm)
酢酸エチル	200	-	200	-
酢酸ビニル	-	-	-	-

厚生労働大臣が定める濃度の基準

化学名	八時間濃度	短時間濃度
酢酸ビニル	10 ppm	15 ppm

設備対策 : この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には、適切な洗眼器と安全シャワーを設置すること。

保護具

- 呼吸用保護具 : 適切な呼吸器保護具を着用すること。
- 手の保護具 : 適切な保護手袋を着用すること。
- 眼、顔面の保護具 : 適切な眼の保護具を着用すること。
- 皮膚及び身体の保護具 : 適切な保護衣を着用すること。

特別な注意事項 : 情報なし

9. 物理的及び化学的性質

- 物理状態 : 液体
- 色 : 黄色透明
- 臭い : 溶剤臭
- 融点・凝固点 : 情報なし
- 沸点又は初留点及び沸点範囲 : 77°C (酢酸エチル)
- 可燃性 : 情報なし
- 爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界 : 2-11.5vol% (酢酸エチル)
- 引火点 : -4°C (酢酸エチル)
- 自然発火点 : 426°C (酢酸エチル)
- 分解温度 : 情報なし
- pH : 情報なし
- 動粘性率 : 情報なし
- 溶解度 : 水に不溶
- n-オクタノール／水分配係数 (log 値) : 情報なし

蒸気圧	: 情報なし
密度及び／又は相対密度	: 0.95 (25°C)
相対ガス密度	: 情報なし
粒子特性	: 情報なし

10. 安定性及び反応性

反応性	: 情報なし
化学的安定性	: 法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。
危険有害反応可能性	: 紫外線、酸、アルカリの影響下で分解する。
避けるべき条件	: 加熱。 : 火源。
混触危険物質	: 強酸化剤。 : 強酸。 : 強塩基。
危険有害な分解生成物	: 加熱分解により一酸化炭素、二酸化炭素を生じる。

11. 有害性情報

急性毒性（経口）	情報なし
急性毒性（経皮）	情報なし
急性毒性（気体）	情報なし
急性毒性（蒸気）	情報なし
酢酸エチル	: 区分4 【分類根拠】 (1)、(2) より、区分4とした。 なお、ばく露濃度が飽和蒸気圧濃度 (123,000 ppm) の90%より低い ため、ミストがほとんど混在しないものとしてppmを単位とする基準値 を適用した。 【根拠データ】 (1) ラットのLC50 (4時間): 14,640 mL/m ³ (14,640 ppm) (DFGOT vol. 12 (1999)) (2) ラットのLC50 (6時間): 16,000 ppm (4時間換算値: 19,600 ppm) (HSDB (Access on September 2019)) 【参考データ等】 (3) ラットのLC50 (4時間): 4,000 ppm (HSDB (Access on September 2019)) (4) ラットのLC50 (6時間): > 6,000 ppm (4時間換算値: 7,300 ppm) (SIDS (2008))
酢酸ビニル	: 区分4 【分類根拠】 (1)~(5) より、区分4とした。 なお、LC50値が飽和蒸気圧濃度 (118,693 ppm) の90%より低い ため、ミストがほとんど混在しないものとしてppmを単位とする基準値 を適用した。 【根拠データ】 (1) ラットのLC50 (4時間): 3,680 ppm (ACGIH (7th, 2018)、ATSDR (1992)、PATTY (6th, 2012)、HSDB (Access on September 2019)) (2) ラットのLC50 (4時間): 4,490 ppm (ACGIH (7th, 2018)、ATSDR (1992)) (3) ラットのLC50 (4時間): 15.8 mg/L (4,487.3 ppm)、14.1 mg/L (4,004.5 ppm) (EU-RAR (2008)) (4) ラットのLC50 (4時間): 3,200~4,490 ppm (NITE初期リスク評価 書 (2005)) (5) ラットのLC50 (4時間): 11,400 mg/m ³ (3,237.7 ppm) (環境省リ スク評価第2巻 (2003))
急性毒性（粉塵ミスト）	情報なし

皮膚腐食性／刺激性

情報なし

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性

酢酸エチル

：区分2B 【分類根拠】
(1)～(3) より、区分2Bとした。

【根拠データ】

- (1) ウサギを用いた眼刺激性試験において一過性の刺激性が認められ、24/48/72hの合計スコア(最大110)は、18、4、2であり、7日までに全ての反応は消失した。改変最大平均スコアは15(最大値=110)であった(CECOTC TR48 (1998)、SIDS (2008)、REACH登録情報 (Access on October 2019))。
- (2) 本物質は400 ppmでヒトに対し、眼、鼻、喉に刺激性を示す(ACGIH (7th, 2001)、HSDB (Access on September 2019))。
- (3) 本物質は眼と呼吸器に刺激性を有する(PATY (6th, 2012)、GESTIS (Access on September 2019))。

【参考データ等】

- (4) EU-CLP分類でEye Irrit. 2 (H319) に分類されている (EU CLP分類 (Access on September 2019))。
- (5) 本物質は1500 mL/m³以上でヒトに対し、眼、鼻、喉に刺激性を示す(DFGOT vol. 12 (1999))。
- (6) 入手可能な情報では本物質は、皮膚及び眼にも刺激性は示さない(SIDS (2008))。

酢酸ビニル

：区分2 【分類根拠】
(1)～(5) より、ヒトの事例を優先し、区分2とした。

【根拠データ】

- (1) 本物質はヒトにおいて21.6 ppmで眼と喉への刺激が報告されている(ACGIH (7th, 2018)、HSDB (Access on September 2019))。
- (2) ウサギを用いた眼刺激性試験で軽度の刺激性が認められた(EU-RAR (2008)、PATY (6th, 2012))。
- (3) 本物質は高濃度で結膜に刺激性を有する(DFGOT vol. 5 (1993))。
- (4) 気化した本物質及び直接のばく露は眼に刺激性を示す(ATSDR (1992))。
- (5) 本物質(1～2滴)をウサギの眼に適用した眼刺激性試験で角膜混濁、結膜発赤、重度の結膜浮腫が24時間後にみられたが、8日以内に回復した(DFGOT vol. 21 (2005))。

【参考データ等】

- (6) OECD TG 405に準拠したウサギを用いた眼刺激性試験で24/48/72hの角膜、虹彩、結膜発赤、結膜浮腫の平均スコアは結膜発赤のみ0.33であったが、他は全て0であった(REACH登録情報 (Access on October 2019))。
- (7) 本物質(0.5 mL)のウサギの眼への適用は重度の刺激性を示す(ACGIH (7th, 2001)、NITE初期リスク評価書 (2005))。

呼吸器感作性

情報なし

皮膚感作性

情報なし

生殖細胞変異原性

酢酸ビニル

：区分2 【分類根拠】

(1)、(2) より、区分2とした。

【根拠データ】

(1) in vivoでは、腹腔内投与又は吸入ばく露による多くのマウス、ラットの骨髄及びマウス精原細胞の小核試験で陰性の報告※があるが、腹腔内投与のラット骨髄小核試験 (NTP Study Number : A23879) は証拠の重み付けにより、総合的に陽性と評価される。また、ラット骨髄の染色体異常試験及び姉妹染色分体交換試験では陽性の報告※がある (※：ATSDR (1992)、DFGOT vol.5 (1993)、IARC 63 (1995)、ACGIH (7th, 2001)、DFGOT vol.21 (2005)、NITE初期リスク評価書 (2005)、EU-RAR (2008))。

(2) in vitroでは、細菌の復帰突然変異試験で陰性、哺乳類培養細胞の染色体異常試験、姉妹染色分体交換試験及びマウスリンフォーマ試験で陽性の報告がある (ATSDR (1992)、DFGOT vol.5 (1993)、IARC 63 (1995)、ACGIH (7th, 2001)、DFGOT vol.21 (2005)、NITE初期リスク評価書 (2005)、EU-RAR (2008)、PATTY (6th, 2012))。

【参考データ等】

(3) EU-RAR (2008) では、in vivo試験の結果について、大部分が信頼性が低い試験であり、最も重要なマウス骨髄小核試験の陽性結果は高毒性の腹腔内投与の場合に限定されていることから、本物質の遺伝毒性がヒト生殖細胞で発現することは考えにくいと結論づけられている (EU-RAR (2008))。

(4) NITE初期リスク評価書 (2005) では、in vivo、in vitroの試験結果より、本物質は遺伝毒性を有すると判断されている (NITE有害性評価書 (2005))。

発がん性

酢酸ビニル

：区分1B 【分類根拠】

ヒトでの発がん性の情報は、(6) に限られている。

適切な試験ガイドラインとGLP基準に準拠して実施された (1) 及び (2) において、動物種2種に悪性腫瘍を含む明らかな発がん性の証拠が認められたことから、区分1Bとした。

既存分類は、(4) のとおり分類されているものの、適切な試験ガイドラインとGLP基準に準拠して実施された厚労省のがん原性試験 (1) 及び (2) において、動物種2種に悪性腫瘍を含む明らかな発がん性の証拠が認められ、有害性評価小検討会の審議を経てヒトにおける懸念から同省が指針を出したことを重視した。

【根拠データ】

(1) ラットを用いたがん原性試験 (2年間飲水投与) で、雄投与群に口腔の扁平上皮がんと扁平上皮乳頭腫、雌投与群に口腔と食道の扁平上皮がんの発生増加がみられた (厚労省委託がん原性試験結果 (Access on September 2019))。

(2) マウスを用いたがん原性試験 (2年間飲水投与) で、雌雄の投与群に口腔と胃の扁平上皮がん、扁平上皮乳頭腫、食道と喉頭の扁平上皮がんの発生増加が認められた (厚労省委託がん原性試験結果 (Access on September 2019))。

(3) ラットに2年間吸入ばく露した試験で、鼻腔の扁平上皮がん、扁平上皮乳頭腫、上皮内がんの発生が認められた (IARC 63 (1995)、EU-RAR (2008)、ACGIH (7th, 2018)、厚労省初期リスク評価書 (2010)、環境省リスク評価第2巻 (2003)、NITE初期リスク評価書 (2005))。

(4) 国内外の分類機関による既存分類としては、IARCがグループ2B (IARC 65 (1995))、EU CLPでCarc. 2、日本産業衛生学会が2B (1998年提案)、ACGIHがA3 (ACGIH (7th, 2018)) にそれぞれ分類している。なお、IARCの評価には (1) 及び (2) の結果は含まれていない。

(5) 本物質は労働安全衛生法第28条第3項の規定に基づき、厚生労働大臣が定める化学物質による労働者の健康障害を防止するための改正指針の対象物質である (平成24年10月10日付け健康障害を防止するための指針公示第23号)。

生殖毒性

情報なし

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

酢酸エチル

：区分3(気道刺激性、麻酔作用)【分類根拠】
ヒト及び実験動物での(1)～(4)の情報より、区分3(麻酔作用、気道刺激性)とした。

【根拠データ】

- (1) ボランティア10人に本物質400 ppmを3～5分間吸入ばく露した試験で、被験者が眼、鼻、喉の刺激を訴えたとの報告がある(DFGOT vol. 12 (1999)、ACGIH (7th, 2001))。
 (2) 男性ボランティア16人に本物質402 ppmを4時間ばく露した試験で、被験者がばく露時間内に眼や口、喉の刺激を訴えたとの報告がある(環境省リスク評価第10巻(2012))
 (3) ネコの単回吸入ばく露試験において、本物質20,000 ppm、45分間のばく露で深麻酔状態に至ったが回復したとの報告がある(ACGIH (7th, 2001))。
 (4) ラットの6時間単回吸入ばく露試験において、自発運動喪失などの典型的な中枢神経系抑制の症状が認められたが、最大6,000 ppm (22.5 mg/L)まで死亡例はなかったとの報告がある(SIDS (2008))。

酢酸ビニル

：区分3(気道刺激性、麻酔作用)【分類根拠】
(1)、(2)より、区分3(麻酔作用、気道刺激性)とした。

【根拠データ】

- (1) ボランティアによる試験で、本物質72 ppm、30分の吸入ばく露で4人の被験者全員が喉粘膜の刺激を訴えたとの報告がある(ATSDR (1992)、ACGIH (7th, 2018))。
 (2) 本物質は粘膜・皮膚を刺激し、高濃度では皮膚脱脂、麻酔作用があるとの記載がある(環境省リスク評価第2巻(2003))。

【参考データ等】

- (3) ラットの単回経口投与試験において、LD50値は約3,500 mg/kg(区分2超)であり、局所刺激と中枢神経系障害の症状(下痢、息切れ、振戦、無反応(apathy))がみられたとの報告がある(EU-RAR (2008)、GESTIS (Access on September 2019))。
 (4) ウサギに本物質7～142 ppmを40分間、単回吸入ばく露した試験で、71 ppm群に中枢神経系の抑制、142 ppm群に中枢神経系の亢進がみられたとの報告がある(NITE初期リスク評価書(2005)、ACGIH (7th, 2018))。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

情報なし

誤えん有害性

情報なし

1 2. 環境影響情報

水生環境有害性 短期(急性)

情報なし

水生環境有害性 長期(慢性)

情報なし

オゾン層有害性

情報なし

生態毒性・魚毒性

：情報なし

生態毒性・無脊椎動物毒性

：情報なし

生態毒性・藻類毒性

：情報なし

残留性・分解性

：情報なし

生体蓄積性

：情報なし

土壌中の移動性

：情報なし

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物

：関連法規ならびに地方自治体の基準に従い廃棄すること。

：都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託する。

：焼却処理をする場合には、引火性物質を含むので注意して行う。

汚染容器及び包装 : 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後、廃棄物処理法及び関連法規ならびに地方自治体の基準に従い処理する。

1 4. 輸送上の注意

国連番号 : 1133
 品名（国連輸送名） : ADHESIVES containing flammable liquid
 国連分類 : クラス3 引火性液体
 容器等級 : II
 海洋汚染物質 : 非該当
 国内規制

陸上輸送 : 消防法、労働安全衛生法等に定められている運送方法に従う。
 海上輸送 : 船舶安全法に定められている運送方法に従う。
 航空輸送 : 航空法に定められている運送方法に従う

1 5. 適用法令

消防法 : 第四類 引火性液体 第一石油類 非水溶性 危険等級II
 化学物質排出把握管理促進法
 第一種 : 酢酸ビニル 1.8%（管理番号：134）
 毒物及び劇物取締法 : 非該当
 労働安全衛生法
 第57条 名称表示物質 : 酢酸ビニル
 酢酸エチル
 第57条の2 通知対象物 : 酢酸ビニル
 酢酸エチル
 施行令別表1-4危険物 引火性の物 : 酢酸エチル
 則第577条の2（がん原性物質） : 酢酸ビニル
 有機溶剤中毒予防規則 : 第二種
 化審法
 優先評価化学物質 : 酢酸ビニル
 酢酸エチル
 悪臭防止法 : 該当
 大気汚染防止法 : 揮発性有機化合物
 : 有害大気汚染物質
 海洋汚染防止法 : Y類物質
 : Z類物質

1 6. その他の情報

引用文献など

- ・製品評価技術基盤機構 化学物質総合情報提供システム（CHRIP）
- ・化学品の分類および表示に関する世界調和システム（GHS）改訂6版、GHS関係省庁連絡会議
- ・溶剤ハンドブック、浅原照三ほか編、講談社サイエンティフィク
- ・危険物船舶輸送及び貯蔵規則（14訂版）、国土交通省海事局検査測度課監修、海文堂
- ・化学品法令集、化学工業日報社、東京法令出版
- ・製品安全データシートの作成指針、（社）日本化学工業協会
- ・15308の化学商品、化学工業日報社
- ・化審法 化学物質（改訂版6版）、通商産業省基礎産業局化学品安全課監修、化学工業日報社

記載内容の取扱いについて

記載内容は全ての資料や文献を調査したわけではないため情報漏れがある可能性があります。また新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定等にご利用される場合には、出典等を良く検討されるか、試験によって確かめられることをお勧めします。なお、含有量、物理化学的性質等は保証値ではありません。また、注意事項は通常的な取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合にはこの点にご配慮をお願いいたします。

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称（日本語）： クロスエイド_全種共通
 供給者の会社名： 株式会社キャンディルデザイン
 住所： 神奈川県川崎市宮前区有馬8-3-11
 電話番号： 044-863-9112
 推奨用途： 粘着剤用硬化剤
 使用上の制限： 用途外での使用は禁止

2. 危険有害性の要約

【GHS分類】

物理化学的危険性

引火性液体： 区分2

健康に対する有害性

急性毒性（経口）： 分類できない

急性毒性（経皮）： 分類できない

急性毒性（吸入：気体）： 区分に該当しない

急性毒性（吸入：蒸気）： 分類できない

急性毒性（吸入：粉塵ミスト）： 分類できない

皮膚腐食性／刺激性： 分類できない

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性： 区分2

呼吸器感作性： 分類できない

皮膚感作性： 分類できない

生殖細胞変異原性： 分類できない

発がん性： 分類できない

生殖毒性： 分類できない

特定標的臓器毒性（単回ばく露）： 区分3（気道刺激性、麻酔作用）

特定標的臓器毒性（反復ばく露）： 分類できない

誤えん有害性： 分類できない

環境に対する有害性

水生環境有害性 短期（急性）： 分類できない

水生環境有害性 長期（慢性）： 分類できない

オゾン層有害性： 分類できない

【GHSラベル要素】

絵表示



注意喚起語： 危険

危険有害性情報： 引火性の高い液体及び蒸気 (H225)

- : 強い眼刺激 (H319)
- : 呼吸器への刺激のおそれ、又は、眠気又はめまいのおそれ (H335+H336)

注意書き

- 安全対策**
- : 熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。一禁煙。(P210)
 - : 容器を密閉しておくこと。(P233)
 - : 容器を接地すること/アースをとること。(P240)
 - : 防爆型の電気機器/換気装置/照明機器/製造者/供給者又は所管官庁が指定する機器を使用すること。(P241)
 - : 火花を発生させない工具を使用すること。(P242)
 - : 静電気放電に対する予防措置を講ずること。(P243)
 - : 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。(P261)
 - : 取扱後は製造業者、供給者又は所管官庁が指定する取扱い後に洗浄する体の部分をよく洗うこと。(P264)
 - : 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。(P271)
 - : 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。(P280)
- 応急措置**
- : 気分が悪い時は医師に連絡すること。(P312)
 - : 皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。(P303+P361+P353)
 - : 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340)
 - : 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)
 - : 眼の刺激が続く場合：医師の診断/手当てを受けること。(P337+P313)
 - : 火災の場合：消火するために製造者/供給者又は所管官庁が指定する適当な手段を使用すること。(P370+P378)
- 保管**
- : 施錠して保管すること。(P405)
 - : 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。(P403+P233)
 - : 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。(P403+P235)
- 廃棄**
- : 内容物/容器を国際/国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。(P501)

3. 組成及び成分情報

単一化合物・混合物の区別 : 混合物

化学名又は一般名 : イソシアネート化合物溶液

成分名	CAS 番号	化審法番号	含有量(%)
酢酸エチル	141-78-6	2-726	52~56
イソシアネート化合物	登録済	登録済	43~47
トリレンジイソシアネート	26471-62-5	3-2214	0.1 ≤ < 0.5

4. 応急措置

- 吸入した場合**
- : 直ちに医師に連絡すること。
 - : 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
- 皮膚に付着した場合**
- : 直ちに医師に連絡すること。
- 眼に入った場合**
- : 水で数分間注意深く洗うこと。
 - : 次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 - : 眼の刺激が持続する場合は、医師に連絡すること。

- 飲み込んだ場合 : 直ちに医師に連絡すること。
: 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
- 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状 : 情報なし
- 応急措置をする者の保護に必要な注意事項 : 情報なし
- 医師に対する特別な注意事項 : 情報なし
- ## 5. 火災時の措置
- 適切な消火剤 : 泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類、噴霧水
- 使ってはならない消火剤 : 棒状放水
- 火災時の特有の危険有害性 : 引火性の高い液体および蒸気。
: 消火後再び発火するおそれがある。
: 火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。
- 特有の消火方法 : 危険でなければ火災区域から容器を移動する。
: 容器が熱に晒されているときは、移動しない。
: 安全に対処できるならば着火源を除去すること。
- 消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置 : 適切な空気呼吸器、防護服（耐熱性）を着用する。
- ## 6. 漏出時の措置
- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 全ての着火源を取り除く。
: 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
: 関係者以外の立入りを禁止する。
: 密閉された場所に立入る前に換気する。
- 環境に対する注意事項 : 情報なし
- 封じ込め及び浄化の方法及び機材 : 不活性材料（例えば、乾燥砂又は土等）で流出物を吸収して、化学品廃棄容器に入れる。
: 危険でなければ漏れを止める。
- 二次災害の防止策 : すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。
: 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
- ## 7. 取扱い及び保管上の注意
- 取扱い : 消防法の規制に従う。
: 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。
: 炎や高温のものから遠ざけること。
: 適切な呼吸器保護具、保護手袋、保護眼鏡、保護面、保護衣を着用すること。
: この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
: 眼に入れないこと。
: 環境への放出を避けること。
- 保管 : 消防法の規制に従う。
: 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。
: 施錠して保管すること。
: 容器を密閉して冷乾所にて保存すること。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度／許容濃度

化学名	管理濃度 (ppm)	管理濃度 (mg/m ³)	産業衛生学会 (ppm)	ACGIH:TWA (ppm)
酢酸エチル	200	-	200	-
トリレンジイソシアネート	0.005	-	0.005	-

設備対策 : この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には、適切な洗眼器と安全シャワーを設置すること。

保護具

呼吸用保護具 : 適切な呼吸器保護具を着用すること。

手の保護具 : 適切な保護手袋を着用すること。

眼、顔面の保護具 : 適切な眼の保護具を着用すること。

皮膚及び身体の保護具 : 適切な保護衣を着用すること。

特別な注意事項 : 情報なし

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	: 液体
色	: 淡黄色透明
臭い	: 溶剤臭
融点・凝固点	: 情報なし
沸点又は初留点及び沸点範囲	: 77°C (酢酸エチル)
可燃性	: 情報なし
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	: 2-11.5vol% (酢酸エチル)
引火点	: -4°C (酢酸エチル)
自然発火点	: 426°C (酢酸エチル)
分解温度	: 情報なし
pH	: 情報なし
動粘性率	: 情報なし
溶解度	: 水に不溶
n-オクタノール／水分配係数 (log 値)	: 情報なし
蒸気圧	: 情報なし
密度及び／又は相対密度	: 情報なし
相対ガス密度	: 情報なし
粒子特性	: 情報なし

10. 安定性及び反応性

反応性	: 情報なし
化学的安定性	: 法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。
危険有害反応可能性	: 紫外線、酸、アルカリの影響下で分解する。
避けるべき条件	: 加熱。 : 火源。
混触危険物質	: 強酸化剤。 : 強酸。 : 強塩基。
危険有害な分解生成物	: 加熱分解により一酸化炭素、二酸化炭素を生じる。

1 1. 有害性情報

急性毒性（経口）

情報なし

急性毒性（経皮）

情報なし

急性毒性（気体）

情報なし

急性毒性（蒸気）

情報なし

急性毒性（粉塵ミスト）

情報なし

皮膚腐食性／刺激性

情報なし

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性

：区分2B

呼吸器感作性

情報なし

皮膚感作性

情報なし

生殖細胞変異原性

情報なし

発がん性

情報なし

生殖毒性

情報なし

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

：区分3(気道刺激性、麻酔作用)

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

情報なし

誤えん有害性

情報なし

1 2. 環境影響情報

水生環境有害性 短期（急性）

情報なし

水生環境有害性 長期（慢性）

情報なし

オゾン層有害性

情報なし

生態毒性・魚毒性 : 情報なし

生態毒性・無脊椎動物毒性 : 情報なし

生態毒性・藻類毒性 : 情報なし

残留性・分解性 : 情報なし

生体蓄積性 : 情報なし

土壌中の移動性 : 情報なし

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物	： 関連法規ならびに地方自治体の基準に従い廃棄すること。 ： 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託する。 ： 焼却処理をする場合には、引火性物質を含むので注意して行う。
汚染容器及び包装	： 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後、廃棄物処理法及び関連法規ならびに地方自治体の基準に従い処理する。

1 4. 輸送上の注意

国連番号	： 1866
品名（国連輸送名）	： RESIN SOLUTION, flammable
国連分類	： クラス3 引火性液体
容器等級	： II
海洋汚染物質	： 非該当
国内規制	
陸上輸送	： 消防法、労働安全衛生法等に定められている運送方法に従う。
海上輸送	： 船舶安全法に定められている運送方法に従う。
航空輸送	： 航空法に定められている運送方法に従う

1 5. 適用法令

消防法	： 第四類 引火性液体 第一石油類 非水溶性 危険等級II
化学物質排出把握管理促進法	： 非該当
毒物及び劇物取締法	： 非該当
労働安全衛生法	
第57条 名称表示物質	： 酢酸エチル
第57条の2 通知対象物	： 酢酸エチル トリレンジイソシアネート
施行令別表1-4危険物 引火性の物	： 酢酸エチル
有機溶剤中毒予防規則	： 第二種
化審法	
優先評価化学物質	： 酢酸エチル
悪臭防止法	： 該当
大気汚染防止法	： 揮発性有機化合物 ： 有害大気汚染物質
海洋汚染防止法	： Y類物質 ： Z類物質

1 6. その他の情報

引用文献など

- ・ 製品評価技術基盤機構 化学物質総合情報提供システム（CHRIP）
- ・ 化学品の分類および表示に関する世界調和システム（GHS）改訂6版、GHS関係省庁連絡会議
- ・ 溶剤ハンドブック、浅原照三ほか編、講談社サイエンティフィク
- ・ 危険物船舶輸送及び貯蔵規則（14訂版）、国土交通省海事局検査測度課監修、海文堂
- ・ 化学品法令集、化学工業日報社、東京法令出版
- ・ 製品安全データシートの作成指針、（社）日本化学工業協会
- ・ 15308の化学商品、化学工業日報社
- ・ 化審法 化学物質（改訂版6版）、通商産業省基礎産業局化学品安全課監修、化学工業日報社

記載内容の取扱いについて

記載内容は全ての資料や文献を調査したわけではないため情報漏れがある可能性があります。また新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定等にご利用される場合には、出典等を良く検討されるか、試験によって確かめられることをお勧めします。なお、含有量、物理化学的性質等は保証値ではありません。また、注意事項は通常的な取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合にはこの点にご配慮をお願いいたします。